

特定非営利活動法人



# ネパール・ミカの会

平成17年新春号 NO.26 2.19発行

NPO法人 ネパール・ミカの会 事務局 194-0035 町田市忠生2-5-36 tel 042-791-0602

## 残念ながら・・・

N.P.O法人ミカの会  
理事長 齋藤 謹也

既に会報等でお知らせし、15名近い参加者と共にネパールに行く手配（チケットなど）も終了した時点で、ネパールに非常事態が宣言されました。電話・メール等つながらず、ネパール情勢がどうなるのか、どうなっているのか、分らない状況の中で2月3日節分の夜、臨時理事会を開催いたしました。もう少し時間がたてば治安が落ちつくのか、政府と政党とマオイストの三者がより激しく対立し武力抗争を含めて紛争が長期化するのか、「分らない」のが現状です。あと一ヶ月に迫った旅行（3/1～3/10）について、「ミカの会」旅行団として安全に不安があるまま実行するのは、やはり避けたほうがよいと満場一致で意見がまとまりました。

従って、3月1日～10日までのネパールへの旅は延期とさせていただき、ラマさんなどネパール関係者からの情報が得られるようになってから、ネパール行（完成式出席）を実行したいと考えております。



今年度、ひろしま祈りの石国際教育交流財団の助成によるシリ・アマリ小学校の増設とミカの会念願の高校の新設建設をしているが、特にマズワニ高校の完成については、ひとしお思い入れがあります。国際ソロプチミスト町田さつきや、故植草澄子追善の為のあけぼのさんの大口寄付とミカの会の頑張りによる基金集めによって完成にこぎつけた事は、この地域にとって画期的な事かと思えます。

教育は未来への光りであり、子ども達はネパールの希望です。そこに高校ができ、しかも女子の進学についての熱意が生じてきたことは、釈尊『誕生』の地における大きな貢献の灯であると自負しています。残念ながら今回は延期と決まりましたが、次回には会員の皆さまや知人の方々に、前にも増してのよろこびを持って「参加」を是非ご検討ください。又、時期行程等についてご希望をお寄せください。

この苦しい状況は、いつまでも続くわけがないと思います。人の良い人情豊かなネパールの人々にとって、一日も早い安定を願わずにいられません。尚、ネパールに旅行に行った方（特に2月）や情報をお知りの方は、ご連絡下されば幸いです。

**=第9次ネパール教育支援の旅は延期となりました=**

# ネパールの人々の幸せを願って想う事

青沼 義信

ネパールに行って子どもたちに会うことは私の楽しみの最大のものですが、最近、特にルンビニに行って子どもたちの姿を見ると、辛くなる事があります。

初めてネパールを訪れたのは第4次の支援の旅でした。それから昨年の中間調査までの7回の訪問で、ネパールの事情を少なからず知ることが出来ました。それらを併せて考えれば考えるほど、不合理の多い国だな～とつくづく思ってしまう。

不合理の最たるものは、カースト制度が法律で禁止されたにも関わらず、生活の中に根強く反映され、それを住民が当たり前として受け入れている事です。

昨年の中間調査で訪問した際、マテマ前駐日ネパール大使にお会いしましたが、ミカの会がルンビニの学校では校舎が不足し、木陰が教室のために雨の日には授業が出来ない学校があるので教室を建てたりの支援をしている、と支援内容を話したところ「そのような学校が在るのか！」と非常に驚いていた事、また、先日某高等学校の英語の教師をしている在日ネパール人に会う機会があり、ルンビニの子どもたちの生活ぶりや校舎が無く木下で勉強している事を話すと、「私は国内ではカトマンドゥウから出た事が無く、地方の事はわからない」とネパール人であってネパールのことが解っていないのです。

高カーストの人たちは、低カーストの人たちの生活について知ろうとしないのではないかとさえ感じられ、マオイストの反体制活動は低カーストの人々を巻き込む絶好の口実で利用されているように思われます。高カーストの人々は高い教育を受け、インドや米国などに留学し高学歴な人が多いのですが、低カーストの人々は貧困者がほとんどで小学校にも行けない人が多く、ルンビニの村長たちは就学率20%ぐらいと認識しているようです。

ネパールの2000年の識字率は約42%(男60%、女24%)と云われており、これはアジア太平洋20ヶ国中19番目で、このままでは世界の落ちこぼれになってしまうのではないかと危惧されますが、これは低カーストの人々に教育が行き渡っていない事の表れです。

人々が信仰する宗教上のカースト制度を、私達が左右する事は出来ませんが、ミカの会の支援は、緩やかですが低カーストの人々や女性の教育水準を上げており、数字としても表れています。

次の表は、支援6小学校(アディアリ・グルワニマイ・マズワニ・ラム・スンディ・ルンビニ)の1,998年と2004年の生徒数の比較です。

1,998年	男女比	2004年	増加数	男女比	伸び率
男子 994	72.3%	1219	225	64.4%	122.6%
女子 380	27.7%	673	293	35.6%	177.1%
合計 1374	-	1892	518	-	127.7%

全体では6年間で28%の増加ですが、特に女子の増加が77%という驚くべきもので、女子の就学に対する大切さが認識されてきた結果によるものと思われます。

又、2001年から開校したマズワニ中学校も女子が約40%を占めており、マズワニ高校の開校時が非常に楽しみです。

シリ・マズワニ中学校生徒推移

男子	2001	2002	2003	2004	女子	2001	2002	2003	2004
1年	29	28	34	34	1年	20	20	28	18
2年		31	21	22	2年		20	20	19
3年			26	20	3年			18	11
合計	29	59	81	76	合計	20	40	66	48

ネパールには、ルンビニ以上の貧困生活者がいると聞いていますが、私達は縁があってルンビニ地区を支援していますので、取敢えずルンビニ地区に支援の力を注ぎ、特にマズワニ村には小・中・高校校舎建設をミカの会が手がけたことで、なんとかルンビニ地区のモデル学校にし、カーストに左右されることがない識字率向上を自ら目指すような少年達を育てていきたいものです。

## 夢に向かって

和田 泰子

永い人生の中で、“背中を押される”ということがあるものだということを昨年暮れほど強く感じたことはありませんでした。

わたしとネパールの係わりは、夢の記にも何回か書かせていただきましたが、ヒマラヤを撮り続けて、劔岳・チンネの氷壁で滑落死した弟の死がきっかけで始まりました。そしてそれは、その後の私の人生を大きく変えることになりました。

大量に残された写真の一部は大石一馬遺作写真集「ヒマラヤ」となり、その売り上げはヒマラヤの麓に住む子どもたちの奨学基金になりました。弟の足跡をたどって、それまで何の関心もなかったネパールに何度も通うようになり、ミカの会と出会いそしてネパールソングートに親しむ会と出会い、私とネパールとの係わりは年ごとに深くなっていきました。3年ほど前に夫の会社で、これから定年を迎える人のために、ライフワークセミナーというのが開かれました。それまで定年後のことなど考えたこともなかったのですが、そのセミナーに参加し、二人で描いた夢は、いつか弟のフォトギャラリーを作りたいということでした。

いよいよ今年1月に夫が定年を迎えることになり、昨年暮れに急に家の建替えの話が浮上り、これでいいのかなーとまだ迷いつつ契約書をかかわした時に、樹の森出版から“天国の郵便局（生者からのラブレター）”ということで、弟さんにお手紙を書いてみませんか”というメールが届きました。またそれと前後してハイゲンキという気功の雑誌から、弟なき後の私の生き方についてということで取材の申し込みがありました。亡くなった弟に手紙を書くうち、また取材を受けて自分の人生について語るうちに、自分の中での迷いが吹っ切れて、「今やりなさい、夢に向かってすすみなさい」と背中を押されているように見え、フォトギャラリーを作ろうという決心が固まりました。

弟が生涯をかけて残した、たくさんの写真を皆さんに見ていただきたい、見ていただきながら、ゆっくりくつろげる小さな場所も用意したい、そんな思いで大石一馬フォトギャラリー＆カフェ開設に向けて動き始めました。どんなものになるのか、不安もいっぱいですが、もし夢がかなって、今年の冬ころギャラリーがオープンしたら、町田からバスという不便な場所ですが、是非写真を見に足をお運びいただくことを願っております。

## ボランティア雑感

今村 知子

ミカの会に参加して六年が過ぎました。私が出来る事は、ほんの僅かでバザーで売り子をするぐらい。他の仲間の人達とは比べられない程の参加＜力＞です。

年数回のバザーで、暑い日、寒い日に、暑いねー寒いねーと言いながら、「\*\*如何ですかー」と前を通る人に声を掛ける。立ち止まって目を止めてくれる人は、本当に数少ない。ネパールの物が売れると嬉しい。一角でリサイクル古着も売る私は古着調達係りの一人です。古着というと、いつも思い出します。終戦後の物の無い時代に、私は小学生でした。

アメリカから、「ラ・ラ物資」という名で、贈り物があり、今のミカンのダンボールの三倍ぐらいの大きさのボール箱に、色々な物が詰められていて、まるで玉手箱のようでした。その一つが私の家にも送られました。子供心に覚えている中身は二つ。一つは、アメで赤と白の縞模様の、さらしアメのようでピカピカ光っていて、カリッとかがめばすぐとけてしまう小さなアメがいっぱい入った缶、それともう一つ、薄水色の布地に、もも色の、花柄で全体に淡い水色の感じの胸あてのあるショートパンツでした。

夏のプールの授業が始まって、水着を持つていなかった私は、それを着て授業を受けました。今の子供達は、おそろいのスクール水着と決められていますが、その頃は先生も何も言わず楽しくプールの時間を過ごせ、思い出すと心が温かくなります。

ネパールに六年前に、初めて行き、着いて外に出たとたん“スイート、スイート”と手を出す子供達にかこまれ一瞬たじろぎました。

どこの街、村、に行っても、粗末な服、裸足の子供もいるのをみて、自分の子供時代を思い出し、今の日本の在り余る物資、食物を、この子供達にあげたい！私に何が出来るかしらと思いました。

五十数年前の、「ラ・ラ物資」になつかしい思い出があるように、今のネパールの子供達が、大人になった時、日本のミカの会が来て新しい校舎が建つた事、ノートやエンピツの入った袋をもらった事、など思い出してくれるでしょうか。物そのもののプレゼントも必要ですが、心に残る思い出のプレゼントが出来たら、と微力ながらミカの会のボランティアに参加しています。

## 小さな夢

小林 公子

夢といわれて何故かカール・ブッセのあの詩を思い浮かべた。当時は小学校から受験して女学校に入学した。すぐ後で6・3・3制になり高校の併設中学校となったが、誘われて陸上競技のクラブに入った。朝練とか合宿とか、夕方遅くまで練習して夜の汽車で帰宅すると母に一ヶ月もの間止めると云って叱られ続けた。めげずに頑張ったせいか、中二の時高校の競技に参加してハードルで優勝し、宮城県での選手権を取った。ラジオの実況中継や、新年度のスポーツの時間に「本年度のホープを探る」という番組に出演したりした時、母は「女学校に入ったらピアノとか色々習わせて女の子らしく育てるのが夢だったのに。短パンで真っ黒になって運動場をかけまわっているなんて。」と母の夢は消えた。

高校生になって始めに進路とか、夢とか、希望とか書くことになった。四つの項目をあげた。第一は薬剤師とか、看護婦とか、医療関係に。高三の時仲の良い友人と看護学校を受験する事になったが、事情があってできなかつた。友人は子供の時からの夢をかなえて現在も独身で札幌の看護学校の校長をしている。いつだったか逆立ちしても追いつけないと云ったらお互い様よと笑っていた。

第二に秘書。映画などであまり仕事はしていないのにサッソウと動き廻っているのがいいなと思った。一度その様な話が舞い込んで来たが色々考えて止めた。

第三は教師。小学校の頃近所の子供達と学校ゴッコをしてよく遊んだ。上級生もいたがいつも先生役をして作詞、作曲をして歌わせたり、踊らせたりして楽しかった。第四に作詩家。高二、高三と学校新聞の編集発行人をしていた。月1回タブロイド版4頁の新聞の印刷代が部費では足りないのので、商店の広告をとり原稿を作ったり、文書の応募があまりないので色々な偽名を使って詩を書いたり、俳句や短歌を作って穴をうめていた。

青春時代の夢の様なものは、楽しく、ほろ苦い思い出を残して三つは消えた。

ずーと時は流れ娘に「母は正義感に燃えるいじわる婆さんになる」と宣言したが、少々難し

かった。そして現在の小さな夢は日々平穩につつがなく暮らすこと常々母に云われていた、誰にでも親切に、又感謝すること。出来るかな？お笑い下さい。

## 仲間・活動・夢

松浦 陽子

ミカの会に入る前の私はただ漠然と「何か他人様のお役に立つお手伝いをしたい。」と言うのが願いでした。ご縁があってネパール教育支援活動をしているミカの会の一員に加えて頂き、沢山の人生の先輩や仲間に出会う事が出来ました。

あれ以来毎月の例会はじめ各地でのバザーやチャリティイベント、そしてその成果を私達自らが現地を訪れ自分達の眼で見て確かめて直接支援をする、年一回の大事なイベントである「ネパール教育支援の旅」に参加することなどを通じて、常日頃、自分の空いた時間をフルに使って一緒に活動に参加し、寒かったり暑かったり雨の日、風の日、嵐の日と気象条件に左右されながらも、バザーなどでは一日中立ちっぱなしでへとへとになったり、ろくに食事を摂る暇もなく頑張ったり又事前の準備、搬入、搬出、合間に時々集まって倉庫の片付け、整理整頓 etc・・・理事さん達はこの活動の他に諸々の煩雑な仕事があり、会議、打ち合わせ、書類の印刷、発送作業、広報活動等々本当にしょっちゅう顔を合わせています。

入会以来7年余り、これらの色んな場面での一つ一つの積み重ねがあって、今のボランティア仲間としてのお互いの信頼感や絆に繋がって来ているのだなあと思えるのです。

そして同じ目的に向かって活動できる良い仲間にも恵まれたことをしみじみ“ああ私は幸せ者だ”ととても感謝しており、地道でささやかながらも着実に現地ネパールに根付いて来た私達ミカの会の支援の成果を、現地の学生や子供達、村人達とも一緒に喜び合える様な、そして更にミカの会の支援活動が現地にもっと深く浸透して、日常的にミカの会の会員がネパールで活動できる場（宿舎兼作業場）を持って、支援を受けて育った若者たちと共に手を携えてネパール発展の為に歩んで行けたらどんなに素晴らしい事かと思えます。

これからも微力ながら少しでもミカの会の支援活動を仲間と共に支えながら、マオイスト達による暴力や恐怖から解放された平和なネパールが蘇ってくれる日を待ち望んでおります。

又、これからの私は自分の2つの仕事やミカの会の活動、その他の雑事に追いまくられながら、「一体何足のわらじを履くのかな？」と言う思いにかられることもしばしばあると覚悟しつつも懲りずに、最近出掛けた研修会や講演会で出会った人達から教えられた、決して無理は

せず、自分も精一杯生活も余暇も楽しみ、それでいても恵まれない



子供たちの為に学校まで作って忙しく眼一杯動いてると言うライフスタイルに痛く感銘を受け、及ぶべくもないけれどもし自分が近い将来、仮に恵まれた条件の立場に立ったとしたならば是非同じ様に、愛や家庭環境に恵まれずに笑顔を失ってしまった子供たちの為に力になってあげたいなどつぶやいてしまうのです。

## 中国三峡の旅

沼野 和子

今年も3月1日からのネパール行きが決まった。去年はちょうど3月6日～18日の中国長江の船旅と重なって参加できなかったのが、今年是非行きたいと願っている。中国の船旅は上海から重慶まで「長江2300?のクルーズ」で、河や海の水を見るのが好きな夫の希望によるものであった。支那事変（昭和12年7月勃発）を知っている私にとっては、南京、武漢、重慶という都市名は戦争の思い出とつながり、中国の人たちの対日感情はどうなのだろうかという心配もあった。しかし、主催者側の配慮によるものか、中国との戦争を思い出させるものは、南京中華門前の博物館で見た写真1枚だけであった。それには南京入場時のものが、茶色くぼけた中華門前に並んだ戦車と軍人が写っていた。それ以外に旅行中戦争にまつわる厭な思いは一度もなかったが、中国の広大さを見るにつけ、よくぞここまで日本陸軍は軍を運んだものと驚くばかりであった。

上海からは中華錦繡号という4000吨の船をチャーターしてのクルーズで、客室84室、乗客140名という豪華な船に乗客は我々40名だけ。乗務員は普段どうりいるので、サービスは満点。誠に快適な船旅を続けることができた。

上海、南京に始まり、九華山、廬山、武漢、岳陽、荊洲と観光地を巡り、最大の目的地三峡ダムを通過。110メートル水位が上がった長江に出て、三峡（西陵峡、巫峡、瞿塘峡）の景色を満喫した。白帝城では数百段の階段を駕籠に揺られて昇ったりした。三国志の世界を垣間見て重慶に到る船中1泊の旅であった。帰途は重慶から上海までは飛行機で2時間半。

しかし、一番印象に残ったのは、三峡ダムの通過だった。ダムの幅2300メートル、高低差110メートル、小さい船はエレベータで上がる。我々の船は大きなドックの中に慎重に慎重に入ってゆく。側壁にぶつからないよう静かに静かにだ。その壁面には何メートルかおきに溝があって中に鉄棒が立っている。その鉄棒の三ヶ所に船から太い鉄のロープを投げて縛り固定する。船の両側には、いくつものゴムのタイヤがついているが、そのこすり跡も所々に見られる。次の船がゆっくりゆっくり入ってきて隣りに並ぶ。同じように船員がロープを投げて船を固定する。船と船との間は5メートルもないくらいだ。2列6隻の船が同じように入り、後の水門が閉まる。しばらくすると水位がぐんぐんと上がり、船はみるみる上昇して行く。20メートル上がるのに10分かからなかった。前の扉が開き、1隻ずつ静かに進む。この作業が4回繰り返されて最後の扉が開き終了する。所要時間は3時間弱。緊張と興味の連続であった。1994年にこの事業が始まり、今は3期目の工事中で、残り1基の工事も2009年には完成する。完成時水位は175メートル上昇。総発電量は840億キロワットに達する。ガイドは世界最大のダムになるのだと何度も繰り返していた。

今までに113万人の人たちが田畑、家を失って移動したという。成田空港の立ち退きがまだ済まない日本のことが頭をよぎる。広大な土地のある中国なればこそ、また号令一つで動く全体主義国家であればこそ可能なのであろう。数々の文化財も水底に沈んだという。何年か毎に起こる大洪水の治水に始まった事業であるが、完成すれば世界最大のダムとなり、万里の長城以来の大工事と言われているが、21世紀の中国はどこまでゆくのであろうか。

## 魅惑のトルコ

大谷 安宏

中央アジアの遊牧民(トケツ)が東西に分かれ、東方で大和民族に西方でヒッタイトになったと言い日本人に親近感を持つ国トルコ。白地に日の丸に対し赤地に白抜きの月と星の国旗も何かの関連を感じないでもなく、「ヤポン、ヤポン？」と話しかけてくるお年寄りやすれ違いに笑顔と会釈を呉れる人が他の国に比べて多かったように思えた。

海峡という言葉には何処と無くロマンを感じる。マラッカ、ジブラルタル、ドーヴァーなどに比べ、ボスポラスは僅かに幅一キロほどでマルマラ海からエーゲ海と黒海を繋ぎ、アジア大陸とヨーロッパ大陸を隔てており、両大陸に築かれたイスタンブール市街は、帝政ローマ、ペルシャそしてアレキサンダーなどの幾多の鬭ぎあいの地もブルーモスクやトプカピ宮殿など、アジアの雰囲気漂うウスクダラの街、グランドバザールなど非常に興味深いところも多く、オリエント急行終着駅としても魅惑的な都市だ。

トルコには400を超える遺跡があるという。スパルタの王妃ヘレンに纏わる木馬で有名なトロイ遺跡、ベルガモのアクロポリス、エフェソス都市遺跡、石灰棚パムッカレの丘にローマ皇帝の築いたヒエラポリスなどローマやギリシャの遺跡に決して劣らない。エーゲ海、地中海沿いは景観の素晴らしい保養地が点在し、カッパドキアで有名なギョレメ地方の巨大な奇岩群の立ち並ぶ様子は正に圧巻で、予想以上に広範囲にわたる。かつてはその多くが住居として使われていたが、現在ではその一部をホテルやレストランとして活かされている。最大規模のものはイスラム教徒の迫害を逃れ、キリスト教徒の築いた地下四階の地下都市には教会、学校、住居、ワイン醸造場、家畜小屋まで残っており、一万五千人もの人が生活していたという。

トルコはイスラム圏に属しているが、戒律は他に比べさほど厳しくなく、女性の衣装も制限が緩く、アルコールの規制も無い。日本海海戦の東郷元帥に因み名付けた‘トウゴビーール’は現在ないがトルコビーールは何処でも飲める。葡萄を原料に松脂を加えた透明な酒「ラク」(ギリシャのウゾ)に水を注ぐと白く濁り「ライオンのミルク」と呼ばれ美味。ガイドによればトルコ料理は世界の三大料理一つとか。料理の種類も多く日本人向き味付けを大いに楽しんだ。小麦の生産高の多く特にパンが美味しい。日本の2倍の国土は山岳地も多く、地平線の彼方までの耕地の続く大平原にはシルクロードが走り、砦作りの隊商宿キャラバンサライはラクダとともに旅人の安堵の眠りが偲ばれるところだ。通貨リラは0が6桁も7桁も付いた紙幣と昨年未0を6桁カットしたものなどが入り混じっており金銭感覚は麻痺する。ハーフボトルワイン1300万リラ、グラスビール700万リラ、トイレチップ30万リラと全てが高額。注文支払いの際には大いに悩み帰国間際にやっとこ慣れる始末。但し100万リラ=80円で決して高くない。



トルコ名物のケバブ(シシカバブー)もいろいろ食し、ハمام(トルコ風呂)で大男の垢すりも体験、トプカピのエメラルドの宝剣や86カラットのダイヤを眺め、世界遺産も4ヶ所訪れた。3000Kmの移動は十分なスケッチ時間が足りず、イスタンブール名物さばサンドを味あわず、ノアの箱舟の着いたアララット山を訪れなかったのは心残りだったが、どうしてもイスタンブールは再度訪れてみたい処であり、また今まで訪れたシルクロードの点と線を何処でどう繋いでいくか計画するのが楽しみだ。

## 『スマトラ沖地震・大津波災害への支援について』

昨暮のスマトラ沖大地震による大津波はインド洋沿岸に未曾有の犠牲者と被害をもたらし、未だ援助も充分に進んでいない状況にあることはマスコミ報道でご承知のことと存じます。

この災害に既にご支援を済まされた方も多いと思いますが、遅ればせながら当会として何らかの支援したく、義援金のご協力を提案いたします。

各国よりさまざまな支援が行われていますが、義援金の使途を明確とするため町田を拠点にスリランカに教育支援活動のあり、幼稚園児、保護者11名の犠牲者、津波被害によりキャンプ生活を余儀なくされている学生400名を支援対象としている“NGOアジア草の根支援交友会”を通じた支援といたします。

主旨ご理解の上、多くの会員の皆様に一口千円一口以上のご協力を期待しています。

振込み先

銀行名 東京三菱銀行 町田支店  
口座名義 NGOアジア草の根支援交友会  
理事長 高橋 敏夫  
口座番号 2334085

振込依頼人 個人名にネパール・ミカの会を併記

## これからの予定

4月 2日、3日 町田市桜まつり(ぐうし館前に出店)  
相模原市桜まつり  
2日間とも両方に出店いたしますので、皆様のご協力よろしくお願いいたします

5月 8日(日) 国際ソロプチミスト町田一さつき10周年記念式典 ホテル ザ・エルシー  
5月14日(土) 定期総会(町田市民ホール第4会議室)

国際ソロプチミスト町田一さつき10周年記念式典、総会出席のラマさんと共に愛知万博ツアーに出かける予定です。詳細は、決定次第お知らせいたします。

ネパール教育支援の旅に関しましては現地の治安状況、建設状況を考慮し再度慎重審議いたしますので暫くお待ち下さい。

### 【編集後記】

2月1日衝撃的なニュースが流れる。国王による非常事態宣言発令である。事務局はその日航空券の予約をする予定でした。会員のW氏はご家族で既にネパール行きの航空券は手配済み。ネパソンのY子氏はカトマンドウ入りの日でした。一切の連絡手段が切断され、現地の事は全く闇の中へ。教育支援の旅はどうなる? 現地のスタッフは? 滞在中の彼女は? 校舎建設は? と不安と心配が胸をよぎる。緊急理事会で支援の旅は安全が確保されるまで延期。楽しみに待っている子供達の笑顔が脳裏に浮かぶ。残念。一日も早く穏やか表情で観光客を迎える事が出来るネパールになることを祈るばかりです。 S.K